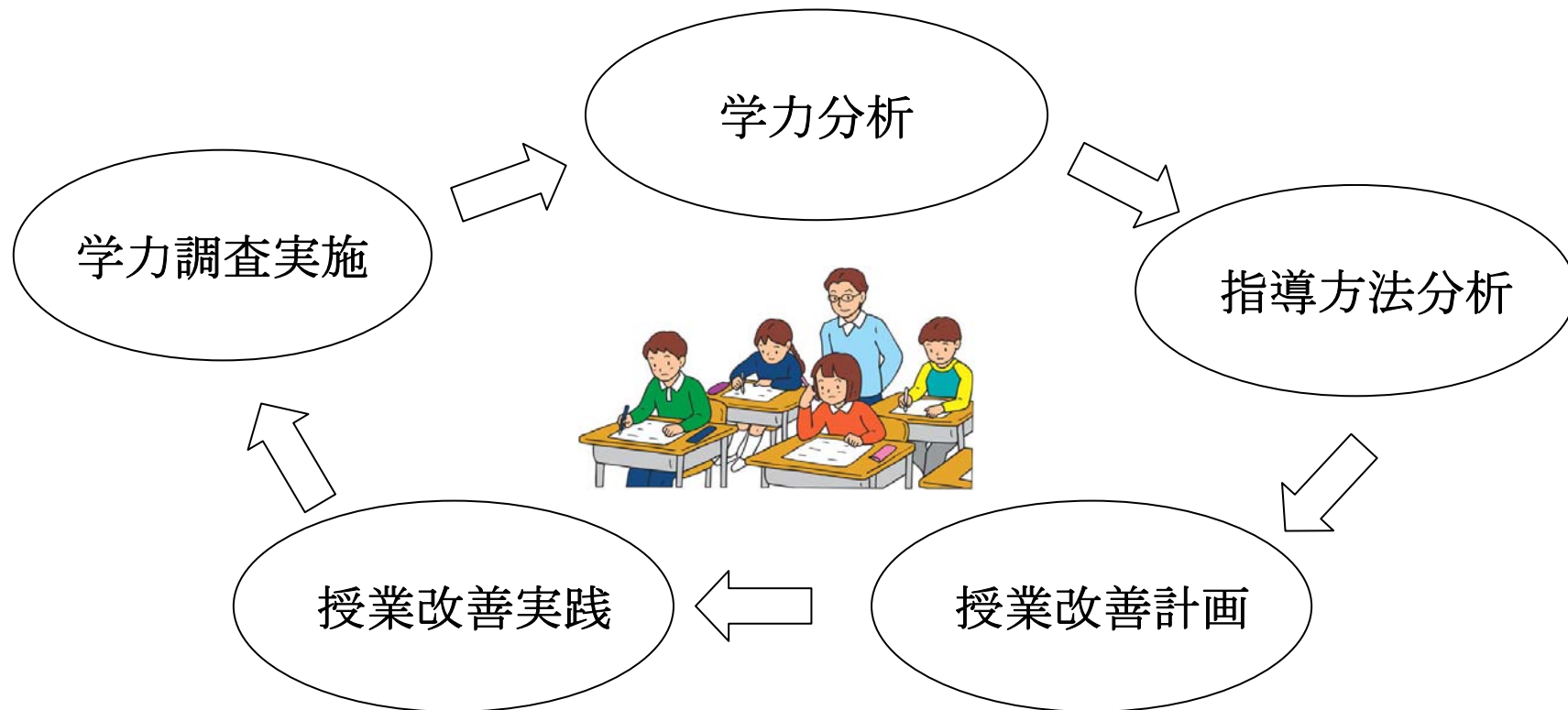


平成20年度

# 授業改善推進プラン



東京都北区立滝野川第二小学校

本校における各教科の実態(現状と課題)	
国語	伝え合う力の育成を目指し、「話し方・聞き方名人」「ハンドサイン」等を基礎にして「話すこと・聞くこと」に取り組んでいる。この力を他教科・領域に発展させることが課題である。
算数	少人数指導に取り組み、単元ごとに習熟度別クラスにしたり、均等分けクラスにしたりしている。一人ひとりが自分の考えを積極的に発表し合うことで、課題解決を図ることが課題である。
社会	一人ひとりの興味関心を生かした学習課題を設定し、見学やインタビュー、図書やパソコンでの調べ学習を通して課題解決を図っている。調べた事実を基に自分の考えを深めることが課題である。
理科	理科支援員とのTT体制(5,6年生)で個別指導を行い、実験や観察に取り組んでいる。グループや学級全体で話し合いながら、予想を立てたり結論を導き出したりすることが課題である。

本校の教育目標
たゆまず学び 工夫する子
きまりを守り 協力する子
にこやかに 心も体も 元気な子

本校が児童に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を生かしながら自己に適した課題を判断し、設定する力。</li> <li>・様々な学習方法の中から課題解決に効果的な方法を判断し、選択する力。</li> <li>・課題解決に向けて、意欲的・主体的に取り組む力。</li> <li>・互いの意見を積極的に伝え合うことによって、自分の考えを整理・深化させていく力。</li> <li>・主体的な課題学習を通して身につけた確かな学力。</li> </ul>

学力向上に関わる経営方針
計画的な指導と指導法の工夫改善に取り組むと共に、個に応じた指導を充実させ、「よく分かる楽しい授業」を実践し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

校内における学力向上推進体制
学力向上に関する特別委員会(研究推進委員会、指導評価委員会、少人数指導委員会、図書館運営委員会、特別支援校内委員会)が、有機的に機能しながら全教員で授業改善に取り組み、児童の学力の向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編制上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
学習形態を工夫し、習熟度別授業や少人数授業、TT授業に積極的に取り組むと共に、小グループによる学習を推進し、個に応じた指導の充実を図る。	朝自習を実施し、読書をしたり読み聞かせをしたり、漢字や計算の反復練習をしたりする。また、放課後を活用した補習「もりもりタイム」を実施する。	地域教材や地域の教育力を活用した授業を通して、主体的に学ぶ意欲を高める。また、一人一公開授業の実践を通して教師の授業力の向上を図る。	評価規準を活用した形成的評価を指導に生かし、指導と評価の一体化を図る。また、関係者評価(保護者、学校評議員等)を積極的に活用し授業改善に生かす。	個人面談の充実を図って家庭との連携を強化し、家庭学習の定着と基本的な生活習慣の確立を図る。また、学校公開、学習ボランティアの活用を推進する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

北区立滝野川第二小学校

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な事を落とさずに聞いたり、話したり、内容を読み取ったりする力は不十分であり、個人差が大きい。</li> <li>・「は・わ」「へ・え」「を・お」などの助詞の使い方が不正確である。</li> <li>・書く文字の筆順や字形が不正確になりがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞き方名人」「話し方名人」になるための具体的なポイントを指導する。</li> <li>・叙述に即して正しく読み取れるよう・キーワードを探して線を引いたり、視写したりする活動を取り入れる。</li> <li>・助詞の使い方は文章の中で読んだり書いたりしながら理解させる。</li> <li>・ひらがな・カタカナ・漢字の指導の際に正しい筆順や字形を意識させ、繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の授業だけでなく、朝の会や帰りの会などで、相手を意識して話したり聞いたりする場面を多く設定する。</li> <li>・日常的に文章を書く機会を増やし、教師が目を通して励まし指導する。</li> <li>・毎日の家庭学習で音読や文字や文章を書く学習を充実させる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい表現を音読し、視写する中で、自分の短作文や感想文に生かすことが出来るように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書以外からの教材や開発単元など、楽しんで学ぶことが出来るよう工夫する。</li> <li>・もりもりタイムや家庭学習を充実させ、個に応じた指導を行う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や言葉の表記を正確に行うよう繰り返し指導していくことが不十分。</li> <li>・学習したことを日常生活で使い、定着させていく活動が不十分。</li> <li>・言葉に着目し、叙述に即して読む指導が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典を日常的に活用し、漢字や言葉の表記を正しく行おうとする学習習慣を身に付ける。</li> <li>・漢字のノート指導、小テストを継続的にを行い、指導と評価を一体化させる。</li> <li>・めあてを明確にし、その達成のためにより効果的な学習方法で授業を展開する。</li> <li>・学習効果を上げる資料を作成し、活用する。</li> <li>・日常的にスピーチや行事ごとの感想文などを取り入れ、継続的に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解や表現が困難な児童には、教師との対話により言葉を引き出し、具体的な助言により個別指導していく。</li> <li>・言語に関する知識を広げるために、幅広い読書の推進を「おすすめの本のしょうかい」「読み聞かせ」「ブックトーク」などを通して行う。</li> <li>・読み取った内容からクイズを作ったり、部首ごとに集めた漢字を使って短文を作ったりするなど、創造的な活動を取り入れる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことが不十分である。</li> <li>・漢字の書き取りの練習が不十分である。</li> <li>・中心を明確にしながら、段落の書き方に注意して書くことが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を継続して文章のよいところを見つけたり、表現したりするために必要な語句を増す。</li> <li>・人物の心情や情景を表す叙述やよい表現に線を引いたり視写したり、話し合ったりしながら、心情や情景を読み取らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現したり理解したりするために必要な文字や語句について国語辞典を活用する習慣をつける。</li> <li>・朝のスピーチタイムを充実させ、構成メモを活用したスピーチを輪番で全員が行う。</li> <li>・音読カードを作成し、家庭の協力を仰ぐ。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な話題についてスピーチ活動を行い、要点などをメモにとりながら聞くことで一人一人感じ方について違いのあることに気づかせる。</li> <li>漢字の書き取りを反復練習し、身にテストを行うことで定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文のスキルを身につけさせる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現したいことを筋道を立てて文章に表すことが不十分である。</li> <li>言語の基礎を理解し、漢字やローマ字を正確に読み書きすることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋道の整った文章を視写したり、構成メモを作って文章を表現したりするようにする。</li> <li>日々の授業の中で言語理解のための時間を設けると共に漢字学習を工夫して行う。</li> <li>言葉や文章に注目して調べる時間をとったり、新聞記事を利用したりする学習などを取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のスピーチタイムを充実させ、構成メモを活用したスピーチを全員が輪番で行う。</li> <li>表現したり理解したりするために必要な文字や語句について辞書を活用する習慣をつける。</li> <li>授業や家庭学習で教科書の音読を行い、目と耳で文章表現に親しむようにさせる。</li> <li>毎日、漢字や言葉の学習が出来るよう家庭学習の仕方を工夫する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や文章に関心を持ち進んで調べたり、読書を通して考えを深めようとするのが不十分。</li> <li>人物の心情や情景について、叙述に即して読み味わったり、表現のよさや効果を感じ取ったりしながら読む活動が不十分。</li> <li>表現したいことを筋道を立てて文章に表すことが不十分。</li> <li>言語の基礎を理解し、漢字を正確に読み書きしたり言葉の意味を正しく理解し活用することが不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書や読書月間（三色読書・ページギネス）を活用したり、読んだ本の発表会をしたりして読む目的を明確にし、読書量を増やして読書力を付けるようにする。</li> <li>人物の心情や情景を表す叙述やよい表現に線を引いたり視写したり、話し合ったりしながら、心情や情景、効果を読み取らせる。</li> <li>筋道の整った文章を視写したり、構成メモを作って文章を表現するようにする。</li> <li>日々の授業の中で言語理解のための時間を設けると共に、ミニ漢字テストをこまめに行う等スモールステップの指導を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区立図書館と連携し、目的に合わせた本をまとめて借りたり、ブックトークを実施したりする。また、保護者と連携し、読み聞かせを実施したり、家庭における読書習慣を付けるようにしたりする。</li> <li>朝のスピーチタイムを充実させ、構成メモを活用したスピーチを輪番で全員が行う。</li> <li>授業や家庭学習で教科書の音読を行い、目と耳で文章表現に親しむようにさせる。</li> <li>毎日、学校と家庭学習で漢字学習に取り組みさせる。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立滝野川第二小学校

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>20までの数の合成分解の理解が不十分で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックなどの具体物を活用し、操作活動</li> </ul>	

	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算はできるが、一定時間にこなせる問題数にかなりの個人差がある。</li> <li>・文章題で、問題文をよく理解しないままやってしまう傾向がある。</li> </ul>	<p>を通して理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルやプリントで繰り返し計算練習を行う。慣れてきたら「速く・正確に・自分の目標値を意識して」集中して取り組ませる。</li> <li>・文章題の問題を声に出して読ませたり、大切な言葉にラインを引かせたりして問題をしっかり理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、家庭学習用のプリントを用意して、計算力の定着を図る。もりもりタイムを利用し、個に応じた指導を行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題の意味や意図と共に、四則計算の内、足し算・引き算の概念を理解させる指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を復習し、反復練習の機会を学習の中に位置づける。</li> <li>・基礎的な学習と共に、文章問題も多く取り入れ、問題の意図を図・絵・操作などを通して理解させ、説明させることを繰り返す行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もりもりタイムや家庭学習を充実させ、個に応じた指導を行う。</li> <li>・目標に到達していない児童は、補充プリントを用意し、理解の徹底を図る。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位取り記数法、数の相対的な大きさについて理解する活動が不十分。</li> <li>・2けたの繰り上がりのある加法、繰り下がりのある減法、3けた－2けた減法の筆算を反復練習する活動が不十分。</li> <li>・長さを表す適切な単位を理解するような活動が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対し、既習事項や経験から試行錯誤しながら自分なりの考えをもてるような時間を確保する。</li> <li>・児童一人ひとりのペースで進められるドリルを作成し、児童が主体的に学習できるように活用する。</li> <li>・具体的な操作活動を多く取り入れる。</li> <li>・既習の計算を反復練習する時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導形態を工夫し、単元の内容によって、習熟度別少人数指導、均等分割少人数指導、単純4分割少人数指導、学級単位でのTT指導等を使い分け、個に応じた指導をさらに充実させる。</li> <li>・授業や家庭学習において、ドリルを活用した計算反復練習を行い、その定着を図る。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法や減法、繰り上がり3回の乗法の筆算、加法と減法を含む式などの計算を反復練習する活動をより充実させる。</li> <li>・重さの単位を理解し、身近にあるものの重さを推察して適切な単位を使えるようになる活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の計算を反復練習する時間を確保する。</li> <li>・実際の重さを体感させる具体的な捜査活動を多く取り入れる。</li> <li>・グループで課題に取り組み、多様な考え方で試行錯誤する活動を通して正しく理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や家庭学習において、ドリルを活用した計算反復学習を行い、その定着を図る。</li> <li>・指導形態を工夫し、単元の内容によって、習熟度別少人数指導、均等分割少人数指導、学級単位でのTT指導等を使い分け、個に応じた指導を更に充実させる。</li> <li>・放課後の時間を活用し、学年で協力して個別指導に力を入れる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に学習し、既習事項や経験から自分なりの考えをもったり、友だちの多様な考えを理解する中で、最適な方法を選択したりするような活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対し、既習事項や経験から自分なりの考えをもてるような時間を確保する。</li> <li>・一人一人の考えを発表し合う時間を確保し、多様な考えを受け入れ、その中から最適な方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導形態を工夫し、単元の内容によって、習熟度別少人数指導・均等分割少人数指導・学級単位TT指導法を使い分け、より中身の濃い指導を充実させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則混合の式の意味や図形の特徴についての理解を深めるための活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法を選択できるようにする。</li> <li>・既習の計算を反復練習する時間を十分に確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や家庭学習において、ドリルを活用した計算反復学習を行い、その定着を図る。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に学習し、既習事項や経験から試行錯誤しながら自分なりの考えをもったり、友達の多様な考えを受け入れたりする中で、最適な方法を選択するような活動が不十分である。</li> <li>・四則の混合した式、小数の乗法・除法、分数の加法・減法、概数での見積もりなどの計算を反復練習する活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の授業のリズムを構築し、児童が主体的に学習できるようにする。</li> <li>・課題に対し、既習事項や経験から試行錯誤しながら自分なりの考えがもてるような時間を確保する。</li> <li>・一人ひとりの考えを発表し合う時間を確保し、多様な考えを受け入れ、その中から最適な方法を選択できるようにする。</li> <li>・既習の計算を反復練習する時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導形態を工夫し、単元の内容によって、習熟度別少人数指導、均等分割少人数指導、学級単位でのTT指導等を使い分け、個に応じた指導を更に充実させる。</li> <li>・授業や家庭学習において、学習プリントを活用した計算反復学習を行い、その定着を図る。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

北区立滝野川第二小学校

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住んでいるまちや北区の様子について、資料から具体的な事実を読み取るような活動が不十分。</li> <li>・資料からわかったことを実際に自分で体験する活動が不十分。</li> <li>・体験したことや資料から読み取ったことが知識として定着していない。</li> <li>・テーマ別に調べたことをまとめる際の、細かな指導が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の興味・関心を引き出し、それらを生かした学習課題を設定する。</li> <li>・資料の読み取りだけでなく、具体的な体験活動を授業に多く取り入れる。</li> <li>・商店街、工場の見学、昔の道具を使う体験活動などを行う。</li> <li>・調べたことをまとめる際は、作品のひな形を示し、表現の仕方を具体的に指導する。</li> <li>・学年集団を分割してコース別学習に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の施設、保護者や地域の方々の協力を得て、校外での課題別調べ学習や体験学習の機会を設ける。</li> <li>・知識を定着させるためにワークシートを活用し、内容を確認したり復習を行ったりする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や各種の資料を効果的に活用し、調べたことを表現する活動が不十分である。</li> <li>・生産や販売活動について、地域の人々がどのような工夫をしているかの理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の様子について資料を活用したり、白地図にまとめたりして調べ、特色を考えられるようにする。学習形態として小グループでの調べ学習を取り入れる。調べたことを発表し合い、理解を深められるようにする。</li> <li>・地域の商店街・消防施設などを実際に見学、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料集めに際しては、図書館司書教諭、区立図書館と連携してテーマに沿った本を集めたり、パソコンルームを効果的に活用したりすることにより、一人一人の学習意欲や資料活用能力を高める。</li> <li>・見学・体験活動を充実させる。</li> </ul>

		体験する。	・知識を定着させるために、まとめのプリント学習を行う。
5年	・知識の理解と共に、資料から具体的な事実を読み取り、そこから自分の考えを持ち、根拠を明らかにしながら、適切に判断するような活動が不十分である。	・学習課題を明確にし、資料や調べた事柄、体験や見学から自分の考えを深め、分かったことや考えたことを新聞などにまとめて発表するような活動を意図的・計画的に設定する。	・教科書や資料集だけではなく、図書館やパソコンルーム、新聞記事や取材などを効果的に活用することにより、一人一人の学習意欲や資料活用能力を高める。
6年	・知識の理解とともに、主体的に学習方法を選択し、資料から具体的な事実を読み取り、そこから自分の考えをもち、根拠を明らかにしながら適切に判断するような活動が不十分である。	・学習課題をを明確にし、資料や体験、調べた事柄から自分の考えを深められるような学習活動を設定する。また一人一人の興味関心を生かしたグループ学習も取り入れ、事実や考えをポスターや新聞にまとめて発表するような活動を意図的・計画的に設定する。	・資料集めに際しては、区立図書館と連携してテーマに沿った本を集めたり、パソコンルームを効果的に活用したりすることにより、一人一人の学習意欲や資料活用能力を高める。 ・知識を定着させるために、まとめのプリント学習を行う。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立滝野川第二小学校

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	興味・関心から実験したり、観察したりしたことが、知識・理解へと結びつくような活動が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察においては、観察のポイントを細かく指示し、気付いたこととわかったことを区別して書くカードを活用する。</li> <li>・見通しをもって問題解決に取り組めるよう、実験においては、問題、予想、方法、結果、結果からわかったこと、感想を記入するようにする。</li> <li>・一人ひとりの考えを基にしたグループや学級全体での話し合い活動を重視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展学習として、昆虫や植物など主体的に世話をする環境を整える。</li> <li>・知識を定着させるために、にワークシートを活用し、内容を確認したり復習を行ったりする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や昆虫の育ち方、特徴などをとらえさせる活動が不十分である。</li> <li>・観察や実験の具体的な方法や技能の会得が不十分である。</li> <li>・実験の結果から児童自らが結論を導き出す活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や昆虫の観察では野外に出かけ、地域の自然に親しむ活動を取り入れる。</li> <li>・身近な昆虫や植物を探したり育てたりして成長の過程や体のつくりを調べ、共通点や相違点について考えられるようにする。</li> <li>・実験や観察の基本的な方法や注意点を明確</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の興味関心が高まるよう、単元によっては理科支援員との連携により、実験・観察の充実を図る。</li> <li>・小グループでの問題解決活動を進め、どの子も主体的に実験・観察・飼育・栽培にかかわるようにする。</li> </ul>

		<p>に示し、安全に行えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験においては、学習カードを活用し、予想を立てる、実験する、記録する、結論を導き出す、ことを繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を定着させるためにまとめのプリント学習を行う。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察において、既習内容や経験から根拠を明らかにして予想を立てたり、結果を正しく記録したり、そこから児童自らが結論を導き出す活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察においては、課題、予想、理由、手順、結果、結論を記入する学習カードを活用する。そして、一人一人の考えを元に、グループや学級全体で話し合いながら予想を立てたり、正確に実験・観察した結果を的確に記録したり、結果から結論を導き出したりする活動を意図的・計画的に設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科支援員の専門性を生かした助言を受けながら、児童の興味・関心を引き出す授業作りを行う。</li> <li>・知識を定着させるためにまとめのプリント学習を行う。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察において、目的を明確にし、既習内容や経験から根拠を明らかにして予想を立てたり、結果を的確に記録したり、結果からどんな結論が導き出せるのかを児童自らが考察したりする活動が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察においては、目的、手順、用具、予想、結果、結論、感想を記入する学習カードを活用する。そして、一人ひとりの考えを基にグループや学級全体で話し合いながら予想を立てたり、正確に実験・観察した結果を的確に記録したり、結果を基に結論を導き出したりする活動を意図的・計画的に設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科支援員とのT T指導を行い、実験や観察における個別支援を充実させる。また、理科支援員より専門性を生かした話をしてもらい、質疑応答をすることにより児童の興味関心を引き出し、学習意欲を高める。</li> </ul>